

1. 意 見

別紙のとおり.

天塩川流域の最上流に位置する町の住民として、そして

として意見を述べさせていただきます。

「安全で安心なまちとは」を考えたとき、交通事故が無い、非行や犯罪が無い等いろいろな事柄が思い浮かびます。

しかし、これらは行政や地域住民の努力により解決できます。

ただ、たったひとつだけ、どんなに努力しても解決できないことがあります。

いつ起きるかわからない自然災害から、まちや人々を守ることです。

「サンルダム」は、洪水調節、水道用水の確保、発電、河川環境の保全等を目的とした多目的ダムとして建設が予定されておりますが、私は、特に流域住民の「洪水防止と利水」が最大の目的と承知しております。

近年の地球温暖化によると思われる異常気象が原因かどうかはわかりませんが、ここ数十年間何事もなかったこの天塩川流域が大きな災害に見舞われました。

それも1年間に2度に渡ってです。

皆様ご承知の通り、昭和48年夏の大雨による川の増水、氾濫、最近では前段に述べた昨年5月10日から11日にかけての低気圧・融雪による異常出水、10月7日から9日にかけての低気圧による洪水により、流域に住む私たち住民が大変な被害にあったことは記憶に新しいことと思います。

下川町においても、幸いなことに人的被害はありませんでしたが、床下浸水に見舞われた家や一時避難を余儀なくされた家、多くの農地等貴重な財産が重大な被害を受けました。

また、国道や主要道道を含めた生活道路、橋が冠水により通行止めになるなど、住民生活自体が大きなダメージを受けました。

町としても、全戸に洪水ハザードマップを配布し、万が一の場合の避難所の指定を行うとともに、毎年非難訓練等を実施したり、日頃からの準備を広報したり防災対策を進めてはおりますが、これらは災害が実際起きてしまったときの対策であり、未然に防ぐことはできません。

最近の自然災害の多発を考えたとき不安だらけです。

住民からは、今年の融雪時期は大丈夫だろうか、また台風や大雨が来たら等、不安ばかりの話しか聞こえてきません。

天塩川には山から多くの支流が注がれており、台風や融雪、大雨災害時には本流自体が増水するため、これら支流の水を飲み込めなくなり、内水氾濫を起こすのです。

この内水氾濫こそが、最近の災害の主原因です。

大きな被害を受けている地区は、堤防等は基準どおり万全に整備されておりますが、川床が高いため内水氾濫を防ぐことはできません。

さらに、今回の一連の災害では川自体が各地で警戒水位を越え、この整備された堤防でさえも決壊しそうなくらいまで増水しました。

もし、堤防が決壊したら・・・本当に不安でした。

これを防ぐとするなら、素人的に考えると、莫大な経費と豊かな自然環境を引き換えにし、幹川総延長256キロメートルにも及ぶこの大河全体の川床を削り低くするしかないと思います。

到底不可能なことですし、もしそうなったとしても川はただの水路と化してしまいます。

遊水地を作り対応するとしても、それ相当な農地等を犠牲にしなければなりませんし、一体何処に作るのでしょうか。

川が氾濫する場所なんて誰にも想定はできないと思います。

天塩川流域の豊かな自然環境を損なわず、程度の経費で流域住民が将来に渡って安全で安心に暮らしていける地域を創るための解決策はただひとつ、「サンルダム」しかありません。

100年に一度の大洪水などと他人ごとのように言う人もいますが、とんでもありません。

すでに一年間に2度も大きな災害が起きているのです。

この地を愛し、今後もこの地で将来に渡って生活していくのは私たちであり、その私たち自身が日夜不安を感じているのです。

もし、「サンルダム」が完成していたなら、水位調節によりこれらの災害は未然に防ぐことができたと思います。

私たち天塩川流域で生活する住民は、祖先が大変な思いで開拓してくれたこの地を永遠に守っていかなければならない義務があります。

将来に渡って洪水から地域住民を守り、安全な水道水や農業用水を確保でき、魚道の整備等を含め自然環境に最大限考慮した「サンルダム」は、天塩川流域住民の安全・安心を守るために絶対不可欠です。

この様な思いは、実際にこの地で生活している者でなければ解らないし、地域住民の総意だと思います。

天塩川水系整備計画の実現、その中心となる「サンルダム」の早期本体着工、完成を心より切望します。